

大苗、暗期中断電照および高節位採花による ダリアの冬春出し作型における多収生産技術

ダリアの周年的な需要の伸びに伴い、福岡県では冬春出し作型の電照加温栽培が増加しています。しかし、この冬春出し作型では花卉（舌状花）の減少による品質低下や冬期の低温による収量の低さなどが問題となります。そこで、福岡県農林業総合試験場では、舌状花の増加に効果がある「暗期中断電照」と増収効果が高い「大苗」および「高節位採花」を組み合わせた高品質切り花の多収生産技術を開発しましたので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 冬春出し作型で安定多収を図るには通常よりも3～4週間早く育苗を始め、育成した大苗（2.5号ポット苗）を8月下旬～9月上旬に定植し、定植直後から暗期中断電照（23時～翌2時）を行い、高節位（切り花長70cmを確保した最上位の節）で採花します（図1）。

2. 大苗定植、暗期中断電照、高節位採花を組み合わせることで、採花本数は慣行と比較して、「かまくら」で130%、「黒蝶」で154%に増加します（図2）。

3. 開発技術で栽培した花は、慣行と比較して、一番花の舌状花率が高く、「黒蝶」の花径はやや大きくなり、同等以上の品質になります。開花日は、一番花で7～19日遅くなり、二番花で14～20日早まります。

4. 10a当たりの所得は、慣行と比較して、175%に増加します。

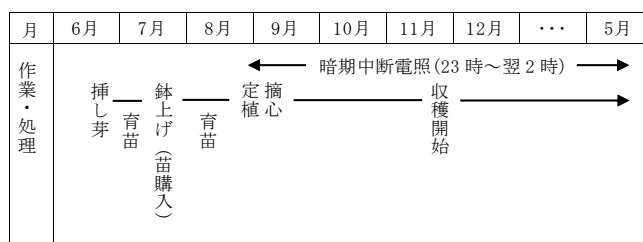


図1 ダリアの冬春出し作型における大苗、暗期中断電照および高節位採花による多収生産技術の概要

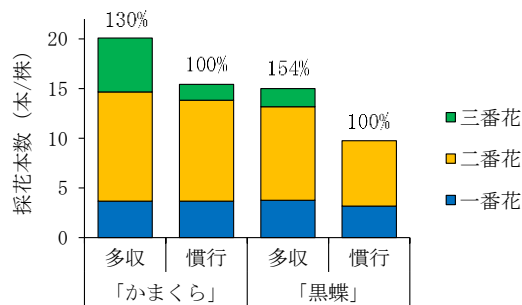


図2 定植苗の大きさ、電照方法および採花位置と採花本数
注) 多収区：大苗、暗期中断電照、高節位採花
慣行区：セル苗、明期延長電照、側枝基部2節残し採花

☆ 活用面での留意点

1. ダリアの冬春出し作型における栽培技術として活用できます。
2. 本技術は電球色蛍光灯を用いた結果であり、異なる光源を用いる場合は電照効果の確認が必要です。
3. 本技術は9月1日に定植を行った結果であり、地域や定植日によって異なります。また、本技術の増収効果は品種によって異なります。
4. 詳しいことは、福岡県農林業総合試験場苗木・花き部（TEL:0943-72-2243）までお問い合わせ下さい。